

セキュリティの確保①（コンピュータ・ウイルス対策）

新聞やテレビの報道で、インターネットやパソコンのセキュリティについての話題が頻繁に取り上げられています。実際、コンピュータ・ウイルスや情報漏洩といった問題は、私たちのまわりでいつでも起こる問題と考えてください。

ここでは最低限必要な事柄として、コンピュータ・ウイルス対策と情報漏洩対策についてのみ述べます。

世界で繰り返されるウイルス感染被害

コンピュータ・ウイルスとは、他人のコンピュータに何らかの手段で入り込んでそのコンピュータにさまざまな異常な動作をさせたり、そのコンピュータにあるファイルを破壊・改ざんしたり、あるいは外部に対してファイルの内容を漏洩させたりするプログラムのことです。

コンピュータ・ウイルスはメールの添付ファイルやインターネット上にあるファイルにこっそりと仕込まれて流通するケースが多いといわれます。特にたちの悪いウイルスには、あるWebサイトを閲覧するだけで感染するもの、ネットワークに接続していると勝手に入り込んでくるウイルス（ワーム）等もあります。最近では、データの持ち運びの手段として盛んに用いられるようになったUSBメモリに感染し、そのUSBメモリを差し込んだパソコンに次から次へと感染するという新しいタイプのウイルスが大きな被害を与えています。

これらは悪意のある作者が作成するものです。残念なことです。世の中にはこうした他人が迷惑がることにばかり屈折した情熱を傾ける人が後を絶ちません。

恐ろしいのは、インターネットを介して、どこか外国で作られたコンピュータ・ウイルスがあっという間に世界中のコンピュータに伝染していくことです。しかもウイルスが伝染する媒体となったパソコンの使用者は、そのパソコンがウイルスに感染していることに気がついていない場合も多いのです。

皆さんのよく知っている信頼できる友人から来たメールであっても、その友人のパソコンが彼の知らない間にウイルスに感染しているかもしれません。その友人から来たメールにウイルスが添付されているかもしれないのです。

残念ですが、現在では世界のインターネットのどこかで常に新しいウイルスが作られ、それが伝染を繰り返しているという状況から逃れることができません。

被害への防御策

こうしたコンピュータ・ウイルスの被害を防ぐためには、皆さんの使うパソコンに必ずウイルス対策ソフトをインストールしておく必要があります。

ウイルス対策ソフトとは、パソコンがウイルスに感染していないかをチェックし、感染している場合には、そのウイルスを取り除いたり何らかの対策のアドバイスをしてくれたりするソフトです。また、メールの添付ファイルに感染したウイルスやネットワーク経由で侵入してくるウイルスを検知して、未然に除去してくれる働きもしています。

何もウイルス対策をしていないパソコンでインターネットを利用することは、あまりに危険です。特に大学のネットワークに自分のパソコンを接続する場合、そのパソコンに不十分な対策しかしておらず、知らないうちにウイルスに感染したまま接続し、その結果、大学のネット

ワークに大きな被害を与えてしまったという事例もあります。

また、ウイルスに感染したパソコンで作成したレポートを担当教員に提出してしまい、担当教員のパソコンに被害を与えたり、あるいはその担当教員のウイルス対策ソフトによって、そのレポートが自動的に削除されて未提出扱いになってしまうかもしれません。

ウイルス対策ソフトは、市販のものやオンラインソフトなどいろいろなものがありますので、必ずどれか一つをインストールしておく必要があります。

ウイルス対策ソフトの更新

ここで大事なことは、ウイルス対策ソフトはただインストールしておくだけでは本来の役割を果たすことができず、常に内容を新しく更新する必要があるということです。ウイルス対策ソフトにはどんなウイルスに対しても効果を発揮できる万能のものはありません。

一方、コンピュータ・ウイルスは時々刻々新しいタイプのものが発生しています。短期間で大きな被害をもたらすウイルスはこのような新種のウイルスが発生したときに起こることが多いのです。ウイルス対策ソフトはそうした新種のウイルスに対応できるように、常にデータを新しくしておく必要があります。データの更新はインターネット経由でウイルス対策ソフトのメーカーのサーバーに接続して自動的に行われるようになっています。

新しいパソコンを購入すると、ほとんどの場合、あらかじめウイルス対策ソフトがインストールされた状態になっているはずですが、こうした対策ソフトは30日間とか90日間などの使用期限限定版で、その期限まではデータは更新されますが、それ以後はデータ更新がされません。つまりその期限以後に現れた新種のウイルスには効力を持ちません。したがって、その時点でいくらかの金額を支払って使用期限の延長をしたり、新しいウイルス対策ソフトに切り替えなければなりません。

これを怠ったばかりに、ウイルス対策ソフトがあるのにウイルスに感染してしまったというケースが多く見られます。そうした学生はウイルス対策ソフトがあるから大丈夫とっていたのですが、こうしたデータ更新の必要性・重要性を理解していないために起こった悲劇です。

なお、本学推奨パソコンには、4年間利用できるウイルス対策ソフトがあらかじめインストールされていますので安心です。また本学推奨パソコンではないパソコンを使っている学生も、本学では全学生分のウイルス対策ソフトのライセンスを持っているので、自分のパソコンをITサポートデスクに持ち込めば、新しいウイルス対策ソフトをインストールしてもらえます。